

レッツ・ゴー！江田島わくわく探検隊

安芸太田町立修道・津浪・殿賀小学校 対象学年（５・６年）

体験活動の種類 社会奉仕 自然 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 江田島市・江田島青少年交流の家

【学校紹介】

	修道小学校	津浪小学校	殿賀小学校
概要	 <p>ICT機器の活用,合唱団の歌声,お出かけ授業を中心とし,地域との連携を積極的に進め,心豊かな児童の育成を図っている。</p>	 <p>地域学習で調べたり学んだりしたことをオペレッタで表現する活動を行い,生き生きと表現できる児童の育成をめざしている。</p>	 <p>江河内谷川にすむ水生生物を科学画で表現する活動等の地域学習を行い,活用力を高める教育活動に取り組んでいる。</p>
校長名	佐々木 亮	中村 忍	牛尾 輝夫
児童数 (学級数)	13 (4)	16 (4)	16 (3)
所在地	広島県山県郡安芸太田町		
	穴2884-1	津浪785	下殿河内240
電話番号	(0826)23-0504	(0826)22-0140	(0826)22-0225
URL	http://www.akiota.jp/shudosho/	http://www.akiota.jp/tsunamisho/	http://www.akiota.jp/tonogasho/

【体験活動のねらい】

集団生活を通して,自分の気持ちを相手に伝える大切さを学んだり規律や協力することの大切さを学んだりし,協調性や連帯意識に基づくよりよい人間関係を形成する力を育てる。

多様な体験活動を通して,困難な体験を克服してやり遂げることにより,支え合いながらねばり強くやり抜く態度を育てると共に自分に自信を持つことができるようにする。

日常とは異なる江田島での体験活動を通して,自然の豊かさについて実感し,自分たちの郷里の良さにも気づかせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6～7月	事前学習 集団宿泊体験の意義，テーマ設定 学習テーマの設定，班別の目標及び 活動の課題設定	4	総合的な学習の時間	津浪小	担任 外部講師
	体験活動に係る道徳授業 (合同授業) 4-(3) ・資料名「子ども会のキャンプ」	2	道徳	殿賀小 各学校 1	担任
	受入先等への依頼文作成	2	国語科	各学校	担任
8月	集団宿泊活動(3泊4日) 1日目 ドッチビー，野外炊飯	24	学校行事	江田島青少年交流の家	担任
	2日目 水晶山登山，カッター研修 海辺の生物観察，ウミホタルの観察			江田島青少年交流の家 環境館	担任 環境館長
	3日目 漁業体験，海辺の清掃活動 カヌー体験，キャンドルの集い			東江漁港 江田島青少年交流の家	漁協職員 担任
	4日目 魚つり			江田島青少年交流の家	担任
9～11月	事後学習 体験活動を振り返り，まとめ お礼の手紙の作成	3	国語科	各学校	担任
	体験活動に係る道徳授業 (合同授業) 3-(2) ・資料名「一ふみ十年」	2	道徳	修道小 各学校 2	担任
	テーマに基づく活動のまとめ 成果発表会にむけての資料作成	10	総合的な学習の時間	各学校	担任
10～11月	成果発表会 成果発表会	1	総合的な学習の時間	各学校	担任

1：1回目は殿賀小にて3校合同授業，2回目は各学校にて授業

2：1回目は修道小にて3校合同授業，2回目は各学校にて授業

【体験活動の概要】

漁業体験（交流体験）

東江漁港において，一粒カキの清掃に取り組んだ。カキの生育について説明を受けた後，一つ一つのカキの汚れを丁寧に除去していった。活動後の児童からは，「潮のにおいがしたり，フジツボが固くてなかなか取れなかったりして大変だった。仕事をしている人々の苦勞がわかった。」という感想が出された。自分たちの住んでいる地域とは違う産業が行われ，そこでの人々の苦勞や努力について理解することができた。



海辺の清掃活動（奉仕活動）

カヌー体験で利用する海辺の清掃活動を行った。この活動の計画は，お世話になる地域や施設への感謝の気持ちを表す



にはどんなことができるか考えさせ、事前学習で計画した。

児童は、ペアになってビニール袋を持ち、家庭ゴミ、流木、発泡スチロールなど様々なごみを集め、黙々と意欲的に清掃活動を行った。自分たちに社会貢献ができたという充実感をもつことができた。

カッター研修

3校合同の活動であることから、人間関係づくりの活動を事前に仕組んだ。研修では、指導員の指示に迅速に従う訓練の後、全員が一艇に乗り込み、江田島の海にカッターで漕ぎ出した。仲間と息を合わせていくことを通して、一人一人が責任を持ち活動に取り組むことの大切さを感じることができた。また、二人で一つの櫂を漕ぐことや、全員で声を合わせることを通して連帯感や協調性を向上させることもできた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

道徳の時間

本活動で育った道徳的価値を深めるために、活動後に3校合同の道徳授業を実施した。

(1) 授業内容

- ・主題名 「自然を愛する心」【3 (2) 自然愛】
- ・資料名 「一ふみ十年」(出典:「ゆたかな心で」東京書籍5)
- ・ねらい 勇の気持ちを考えることを通して、自然の偉大さを理解し、自然を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 授業における留意点

体験活動で感じた道徳的価値についての考えを深めるために、展開後段では、体験活動時での写真を提示した。江田島においてカキが成育するためには、豊かな海が必要であること、そのためには江田島だけでなく、自分たちの住む安芸太田町で行われている植樹活動等の取組が必要であることを知らせた。そしてこのように、自然を守る活動が幅広く行われていることについて考えさせた。



(3) 児童の反応

体験活動で感じた自然の素晴らしさを想起し、海と山を結ぶ植樹活動について知ることを通して、自然の美しさを感じ、自然を大切にしようとする気持ちを高めることができた。

【交流先や施設等との連携】

- 事前
- ・学習テーマを設定する際(事前学習)に施設担当者を招聘し、説明を受けた。
 - ・事前の現地調査の際、体験学習指導者と直接会い、活動のねらいや学校側がお願いしたい指導内容について連携した。
- 活動中
- ・ねらいや指導内容、安全面についての配慮等を確認し、活動をスタートさせた。
- 事後
- ・学校からの礼状、児童からのお礼の手紙を送付した。

【評価の工夫】

活動中は、毎日振り返りの時間を30分確保し、グループ協議と全体交流をさせた。体験学習のしおりに、毎日の振り返りシートを設け、「一日の満足度」「みんなのことを考えて行動できたか」「グループで協力して活動できたか」の3つの視点で振り返らせ、それをもとに翌日の活動への決意を書かせた。その際、周囲からの肯定的な評価を大切にし、活動の意欲を高めた。

3日目の夜に、これまでの活動をスライドで振り返り、家族からの手紙を読む活動を行った。その後、家族への手紙を書く活動を行った。さらに、宿泊体験終了後、振り返りの作文を書かせた。これらの活動により、児童の思いや心の変化をつかむことができた。

成果発表会の原稿を作成させ、発表会を迎えた。保護者や地域の方等他者からの評価により、成長を確認することができた。

体験活動全般の振り返りを、2学期以降の学校生活や学校行事に活かせるよう、指導と評価を繰り返した。

【安全面の配慮事項】

事前の下見を行い、施設担当者や体験学習指導者と安全面に係る配慮事項について打ち合わせを行った。また、周辺の医療施設の確認を行った。

活動中は、熱中症対策に特に留意し、飲料水の確保や水分補給を計画的に行った。

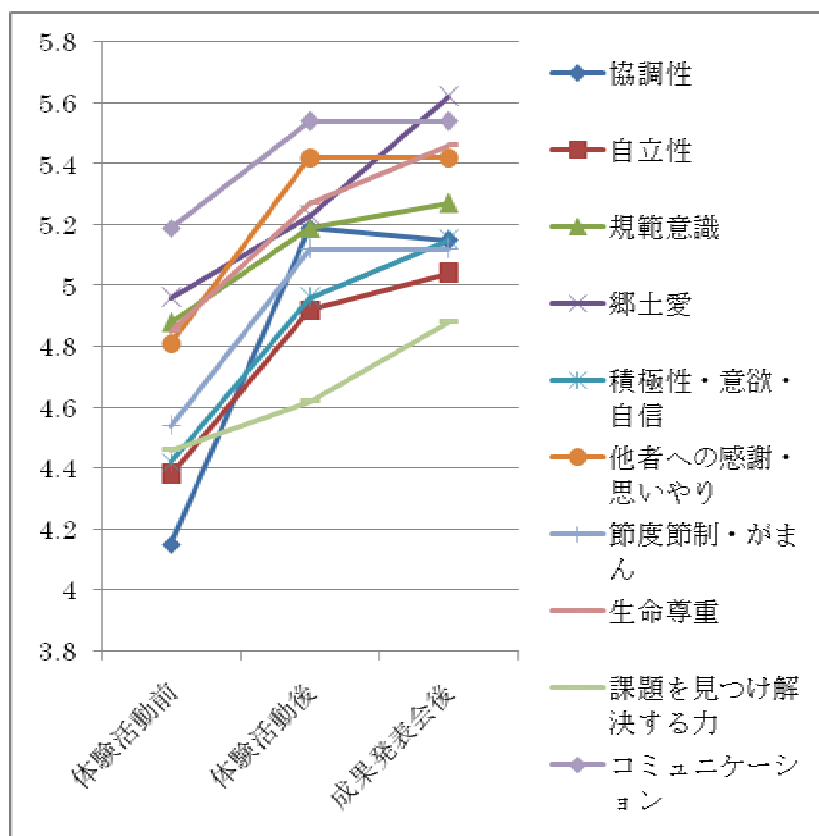
過密な日程にならないよう、プログラムを計画した。

【体験活動の成果と課題】

成果

児童へのアンケートの結果は、いずれの項目も体験活動前から成果発表会後にかけて伸びてきている。

とりわけ、著しい伸びがみられたのは「協調性」である。3小学校による合同開催なので、事前に人間関係づくりを仕組んで体験活動を迎え、日常とは違ったメンバーと一緒に4日間という今まで体験したことのない期間を共に過ごし、児童相互の協働が必須となるカッター研修・野外炊飯等の活動を通して、互いに力を合わ



互いに力を合わ

せていくことの良さを体感した結果であると考えられる。

また、このことに付随して、「節度・節制」「積極性・意欲・自信」の項目も大きく伸びている。これらも、協調性をベースとして、日常とは異なる場においても、自らが計画したことを実践できたという思いから自信がついてきた結果であると考えられる。

保護者の感想には、児童の家庭での生活が大きく変わったというものやその他の場面においても児童の成長を感じるようになったというものがあった。日常とは違った3小学校合同の環境の中で4日間を共に過ごした友だちとの関わり合いが児童を大きく成長させたと受けとめられている。

児童は、友だちと協働して活動することで、人間関係を形成することができた。

【児童の作文（一部抜粋）】

三つ目は、他の人を思いやって行動するという事です。この江田島での4日間は、常に周りの人のことや、次に使う人のことを考えて行動できました。何ひとつ無駄なことはなかったと思っています。みんなで集団行動をするために、規律正しい生活を送ることが大切なんだということを学びました。

ぼくは、この4日間、仲間と過ごし多くの経験をしたことで、心が成長できたと思います。しんどくてもあきらめないこと。一人ではできないことも仲間と一緒にやり切ることができるということ。学校では、たった一人の6年生だけれど、仲間の存在を心から感じられた4日間でした。このことをバネに、これからもがんばります。

課題

「山・海・島」体験活動で得た成果を継続・発展させるよう、今後の指導と評価をさらに工夫していく。

長期宿泊体験を次年度以降も計画的に実施していくよう、実施方法について工夫改善を図っていく。